

「老後の生活はアタスクアリ」「  
ショーンに耐えられるか」

岩瀨  
直行 陸自88

前回は公的年金を原資とする老後生活がステップフレーション（景気後退とインフレの同時進行・賃金上昇率へ物価上昇率）に耐えられるのか？ という問い合わせをさせていた

退職後の生活設計（第3回）  
「老後の生活はスタグフレーションに耐えられるか」

岩瀬 直行 陸自88

前回は公的年金を原資とする老後生活がスタグフレーション（景気後退とインフレの同時進行・賃金上昇率△物価上昇率）に耐えられるのか？という問い合わせをさせていた

率を使用」と「マクロ経済スライド率（※基本的にはマイナスの係数）を掛け合わせることとなり、スタグフレーション時には年金の実質価値は確実に目減りすることを説明しました。

それではスタグフレーション時では実質的な基本生活費がどれだけ上昇し、定年退職自衛官の公的年金額とのギャップが具体的にどのくらいになるのか考察してみましょう。

次に上昇し続ける基本生活費と公的年金額の毎年のギャップの推移です。専門的にはこの毎年のギャップを年間取支と言います。これをキヤツシユフロー表から説明します。

キヤツシユフロー表とは毎年の収入から支出を差し引いた額（年間取支）を積み重ねてゆく一覧表で、ファイナンシャルプランナーがライフプランを立案する場合の係数的な作成資料です。

第1回目は、老後の生活で一般的に「無理のない普通の生活を」「夫婦過ごす」場合は、現在価値で年間300万円程度の基本生活費が必要と考えてみたいと思います。

「老後の生活はスタグフレーションに耐えられるか」

岩瀬 直行 陸自88

前回は公的年金を原資とする老後の生活がスタグフレーション（景気後退とインフレの同時進行・賃金上昇率×物価上昇率）に耐えられるのか？という問い合わせをさせていたところ、今回はそのことについて考えてみたいと思います。

第1回目は、老後の生活で一般的に「無理のない普通の生活をご夫婦過ごす」場合は、現在価値で年間300万円程度の基本生活費が必要（弱）だけであっても、夫婦合わせて配偶者が老齢基礎年金（年間80万円）だけであっても、夫婦合わせて年間80万円程度の基本生活費が必要です。この年金額に対する上昇率で、毎年、前年の年金額に対し1%増加するか計算してみます。物価上昇率は前年の年金額に対する上昇率です。

率を使用」と「マクロ経済スライド率（※基本的にはマイナスの係数）を掛け合わせることとなり、スタグフレーション時には年金の実質価値は確実に目減りすることを説明しました。

次に上昇し続ける基本生活費と公的年金額の毎年のギャップの推移です。専門的にはこの毎年のギャップを年間取支と言います。これをキヤツシユフロー表から説明します。

キヤツシユフロー表とは毎年の収入から支出を差し引いた額(年間取支)を積み重ねてゆく一覧表で、ファンチャルプランナーがライフプランを立案する場合の係数的な作成資料です。

年金生活以後の収入は基本的に公的年金のみで、支出は借金がなければ基本生活費のみとなります。(配偶者が専業主婦(夫)の場合、二人合わせた公的年金額の額面が320万円と設定しますと、ステップレーティング時では、これに賃金上昇率とマクロ経済スライド率を掛け続けるため、320万円未満で推移します)

これまで物価上昇率と賃金上昇率がゼロで良かったので定年退職自衛官のような年金に恵まれている人達は余程の借金がない限り、再就職してから年金受給するまでの10年程度の期間さえ凌げば、公的年金受給以後は無理のない普通の老後の生活を送れましたが、そうは行かなくなっているのです。

私はセミナーで若い自衛官が定年退官し100歳まで生きる場合を前提にキャッシュフロー表を作ったことがあります。そこでは物価上昇率をたつたの1%と設定しましたが、100歳になる頃には何とトータル1・7億円強のマイナスとなっていました。最初はあんまりの結果に怒りもいましたが、計数的かつ具体的に説明し、理解してもらうと、皆さんはござります。

額面で300万円は超える」と一般的なので、デフレが続く限りは、公的年金だけでなんとか生活し行けることを述べました。

退職後の生活設計（第3回）

## 「老後の生活はスタグフレーションに耐えられるか」

岩瀬 直行 陸自88

前回は公的年金を原資とする老後生活がスタグフレーション（景気後退とインフレの同時進行・賃金上昇率へ物価上昇率）に耐えられるのか？という問い合わせをさせていただきました。今回はそのことについて考えてみたいと思います。

第1回目は、老後の生活で一般的に「無理のない普通の生活をご夫婦過ごす」場合は、現在価値で年間300万円程度の基本生活費が必要、定年退官した自衛官の場合、例へ、額面で300万円は超えることだけであっても、夫婦合わせ一般的的なので、デフレが続く限りは、公的年金だけでなんとか生活し得ることを述べました。

それではスタグフレーション時では実質的な基本生活費がどれだけ上昇し、定年退職自衛官の公的年金額とのギャップが具体的にどのくらいになるのか考察してみましょう。

始めにスタグフレーション時の基本生活費の名目額の変化です。「無理のない普通の生活をご夫婦で過ごす」ことができる基本生活費の300万円が、物価上昇率が1%で推移し続けた場合、どのくらいの額まで上昇するか計算してみます。物価上昇率は前年の年金額に対する上昇率ですので、毎年、前年の年金額に対し101倍をかけ続けることになります。

具体的な計算式は、 $300 \times (1.01)^n$ （ $n = 1$ 乗） $\times$ （ $n = \text{経過年数}$ ）となり、現在、40歳と仮定した場合

次に上昇し続ける基本生活費と公的年金額の毎年のギャップの推移です。専門的にはこの毎年のギャップを年間収支と言います。これをキヤツシユフロー表から説明します。

キヤツシユフロー表とは毎年の収入から支出を差し引いた額(年間取支)を積み重ねてゆく一覧表で、ファインナンシャルプランナーがライフプランを立案する場合の係数的な作成資料です。

年金生活以後の収入は基本的に公的年金のみで、支出は借金がなれば基本生活費のみとなります。配偶者が専業主婦(夫)の場合、二つ合わせた公的年金額の額面が320万円と設定しますと、ステップレーティング時では、これに賃金上昇率とマクロ経済スライド率を掛け続けるため、320万円未満で推移します。そうなりますと年間収支は年金受給初年度の65歳の年ではマイナス60万円(320万円未満-380万円)その後もマイナスが増え続け、100

これまで物価上昇率と賃金上昇率がゼロで良かったので定年退職自衛官のような年金に恵まれている人達は余程の借金がない限り、再就職してから年金受給するまでの10年程度の期間さえ凌げば、公的年金受給以後は無理のない普通の老後の生活を送りましたが、そうは行かなくなっているのです。

私はセミナーで若い自衛官が定年退官し100歳まで生きる場合を前提にキヤツシユフロー表を作つたことがあります。そこでは物価上昇率をたつたの1%と設定しましたが、100歳になる頃には何とトータル1・7億円強のマイナスとなっていました。最初はあんまりの結果に怒る人もいましたが、計数的かつ具体的に説明し、理解してもらうと、皆さん喜びます。

昨今の日本の物価上昇の程度が笨えない状況になってきたこと、バル崩壊以降、先進国で唯一、賃金上昇率が低下し続けているわが国の現状が

第2回目は、公的年金額は現役時に積み立てた額面に「物価スライド率」(※ステップレーション時は、物価スライド率は賃金上昇が物価上昇に追い付かないにも拘らず賃金上昇

退職後の生活設計（第3回）

## 「老後の生活はスタグフレーションに耐えられるか」

岩瀬 直行 陸自 88

前回は公的年金を原資とする老後生活がスタグフレーション（景気後退とインフレの同時進行・賃金上昇率×物価上昇率）に耐えられるのか？という問い合わせをさせていただきました。今回はそのことについて考えてみたいと思います。

第1回目は、老後の生活で一般的に「無理のない普通の生活をご夫婦過ごす」場合は、現在価値で年間300万円程度の基本生活費が必要で、定年退官した自衛官の場合、例え配偶者が老齢基礎年金（年間80万円弱）だけであっても、夫婦合わせで額面で300万円は超えること一般的なので、デフレが続く限りは、公的年金だけでなんとか生活しに行けることを述べました。

第2回目は、公的年金額は現役時代に積み立てた額面に「物価スライド率」（※スタグフレーション時は、物価スライド率は賃金上昇が物価上昇率）と「マクロ経済スライド率」（※基本的にはマイナスの係数）を掛け合わせることとなり、スタグフレーション時には年金の実質価値は確実に目減りすることを説明しました。

それではスタグフレーション時では実質的な基本生活費がどれだけ上昇し、定年退官自衛官の公的年金額とのギャップが具体的にどのくらいになるのか考察してみましょう。

始めにスタグフレーション時の基本生活費の名目額の変化です。「無理のない普通の生活をご夫婦で過ごす」ことができる基本生活費の300万円が、物価上昇率が1%で推移し続けた場合、どのくらいの額まで上昇するか計算してみます。物価上昇率は前年の年金額に対する上昇率ですので、毎年、前年の年金額に対して101倍をかけ続けることになります。

具体的な計算式は、 $300 \times (1 + 0.01)^n$  乗（※n=経過年数）となり、現在、40歳と仮定した場合で380万円、100歳の時は300万円×(1.01)<sup>24</sup>乗で5339万円となり、曲線的に増加してゆきます。これを複利効果といいます。

次に上昇し続ける基本生活費と公的年金額の毎年のギャップの推移です。専門的にはこの毎年のギャップを年間収支と言います。これをキヤツシユフロー表から説明します。

キヤツシユフロー表とは毎年の収入から支出を差し引いた額(年間収支)を積み重ねてゆく一覧表で、ファイナンシャルプランナーがライフプランを立案する場合の係数的な作成資料です。

年金生活以後の収入は基本的に公的年金のみで、支出は借金がなければ基本生活費のみとなります。(配偶者が専業主婦(夫)の場合、二人合わせた公的年金額の額面が320万円と設定しますと、ステップレーション時では、これに賃金上昇率とマクロ経済スライド率を掛け続けるため、320万円未満で推移します) そうなりますと年間収支は年金受給初年度の65歳の年ではマイナス60万円(320万円未満 - 380万円)その後もマイナスが増え続け、100歳ではマイナス219万円(320万円未満 - 539万円)まで膨らみます。余程の蓄えがない限り、「無理のない普通の生活を夫婦で過ごすことさえ儘ならなくなります。

これまで物価上昇率と賃金上昇率がゼロで良かったので定年退職自衛官のような年金に恵まれている人達は余程の借金がない限り、再就職してから年金受給するまでの10年程度の期間さえ凌げば、公的年金受給以後は無理のない普通の老後の生活を送れましたが、そうは行かなくなっているのです。

私はセミナーで若い自衛官が定年退官し100歳まで生きる場合を前提にキヤツシユフロー表を作つたことがあります。そこでは物価上昇率をたつたの1%と設定しましたが、100歳になる頃には何とトータル1・7億円強のマイナスとなっていました。最初はあんまりの結果に怒る人もいましたが、計数的かつ具体的に説明し、理解してもらうと、皆さん青ざめます。

昨今の日本の物価上昇の程度がえない状況になってきたことと、バブル崩壊以降、先進国で唯一、賃金が低下し続いているわが国の現状から、抜本的な変化がない限り、その確実性が増していくと感じます。どうすれば老後の生活を防衛できるのか、次回はそのことについて考